

平成20年の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴について

平成20年の梅雨入りは、沖縄・奄美と東北地方ではかなり遅く、東日本と西日本ではかなり早かった。梅雨明けは早いところが多かったが、北陸地方と東北南部はかなり遅かった。降水量は、6月は平年並のところが多かったが、7月は東日本と西日本でかなり少なかった。

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴のまとめを行っています。今般、平成20年の梅雨についてとりまとめた結果は以下のとおりです。

1. 梅雨入り・明け

今年の梅雨入り・明けを別表1、2のとおり確定した。

2. 確定値のポイント

(1) 梅雨入り〔九州北部、中国地方〕

速報での梅雨入り発表後はおおむね予想の通り経過したものの、日照時間や平均雲量など、より長い期間の天候経過及び九州南部や四国地方の天候経過との比較などから、これらの地方と同じ日を梅雨入りとした。

(2) 梅雨明け〔北陸、東北地方〕

速報での梅雨明け発表後も、北陸、東北地方では前線の影響を受けて予想に比べて晴天が持続せず、また7月下旬には北陸地方で前線による大雨が発生したことなどから、この前線の影響が解消した後の梅雨明けとした。

3. 梅雨時期の特徴（詳細は別紙のとおり）

(1) 梅雨入り

沖縄・奄美と東北ではかなり遅く、東日本と西日本ではかなり早い梅雨入りとなった地方が多かった。

(2) 梅雨明け

早い梅雨明けとなったところが多かったが、北陸と東北ではかなり遅かった。

(3) 梅雨前線

梅雨前線は、5月と6月は日本の南の海上に停滞することが多かった。7月は平年に比べ活動が弱かったが、下旬には北陸から東北にかけて停滞し、局地的な大雨となったところがあった。

(4) 降水量

降水量は、6月は九州南部、関東甲信でかなり多く、東北南部でかなり少なかったが、そのほかは平年並のところが多かった。7月は東日本と西日本でかなり少なかった。

本件の問い合わせ先：予報部予報課 03-3212-8341（内線3127）

地球環境・海洋部気候情報課 03-3212-8341（内線3154）

平成20年の梅雨入り・明け

地域名	梅雨入りと階級(*1)			梅雨明けと階級(*1)			梅雨時期の降水量 平年比と階級(*2)
	確定値	速報値	平年	確定値	速報値	平年	
沖 縄	5月22日ごろ(+)*	5月22日ごろ	5月 8日ごろ	6月17日ごろ(-)	6月17日ごろ	6月23日ごろ	82%(-)
奄 美	5月22日ごろ(+)*	5月22日ごろ	5月10日ごろ	7月 2日ごろ(+)	7月 2日ごろ	6月28日ごろ	91%(0)
九州南部	5月28日ごろ(0)	5月28日ごろ	5月29日ごろ	7月 6日ごろ(-)	7月 6日ごろ	7月13日ごろ	93%(0)
九州北部	5月28日ごろ(-)*	6月10日ごろ	6月 5日ごろ	7月 6日ごろ(-)	7月 6日ごろ	7月18日ごろ	83%(-)
四 国	5月28日ごろ(-)*	5月28日ごろ	6月 4日ごろ	7月 6日ごろ(-)	7月 4日ごろ	7月17日ごろ	71%(-)
中 国	5月28日ごろ(-)*	6月11日ごろ	6月 6日ごろ	7月 6日ごろ(-)*	7月16日ごろ	7月20日ごろ	52%(-)*
近 畿	5月28日ごろ(-)*	6月 2日ごろ	6月 6日ごろ	7月12日ごろ(-)	7月16日ごろ	7月19日ごろ	70%(-)
東 海	5月28日ごろ(-)*	6月 2日ごろ	6月 8日ごろ	7月12日ごろ(-)	7月19日ごろ	7月20日ごろ	75%(-)
関東甲信	5月29日ごろ(-)*	6月 2日ごろ	6月 8日ごろ	7月19日ごろ(0)	7月19日ごろ	7月20日ごろ	92%(0)
北 陸	6月19日ごろ(+)	6月19日ごろ	6月10日ごろ	8月 6日ごろ(+)*	7月19日ごろ	7月22日ごろ	69%(-)
東北南部	6月22日ごろ(+)*	6月19日ごろ	6月10日ごろ	8月 6日ごろ(+)*	7月19日ごろ	7月23日ごろ	73%(-)
東北北部	6月23日ごろ(+)*	6月19日ごろ	6月12日ごろ	8月 5日ごろ(+)	7月19日ごろ	7月27日ごろ	104%(0)

(*1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「**日ごろ」と表現した。

記号の意味は、(+)*：かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)*：かなり早い、の階級区分を表す。

(*2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*：かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)*：かなり少ない、の階級区分を表す。

階級区分は、1971~2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%	33%	33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い	平年並	早い
	かなり遅い		かなり早い
降水量	少ない	平年並	多い
	かなり少ない		かなり多い

代表地点における梅雨期間の降水量（参考）

地域名	代表地点	梅雨期間降水量（同期間の平年値合計）
沖縄	那覇	183.5mm (234.7mm)
奄美	名瀬	564.0mm (511.3mm)
九州南部	鹿児島	784.0mm (540.4mm)
九州北部	福岡	449.0mm (338.8mm)
四国	高松	186.0mm (201.7mm)
中国	広島	220.5mm (327.9mm)
近畿	大阪	278.0mm (296.6mm)
東海	名古屋	296.5mm (312.7mm)
関東甲信	東京	307.0mm (288.2mm)
北陸	新潟	153.5mm (276.4mm)
東北南部	仙台	131.5mm (243.8mm)
東北北部	青森	177.0mm (141.6mm)

参考として、各地域の代表的な地点の入りの遷移期間のおおむね中日から明けの遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示した。括弧内には、同期間の日別平滑平年値の合計値を示した。

平成20年 各地域の梅雨入り・明けと梅雨時期の特徴

沖 縄

梅雨入りはかなり遅く、明けは早かった。

奄 美

梅雨入りはかなり遅く、明けは遅かった。日照時間は少なく、気温は高かった。

九州南部

梅雨明けは早かった。降水量は前半かなり多く、後半かなり少なかった。日照時間は前半かなり少なく、後半かなり多かった。気温は後半かなり高かった。

九州北部

梅雨入りはかなり早く、明けは早かった。降水量は前半多く、後半かなり少なかった。日照時間は前半かなり少なく、後半かなり多かった。気温は後半かなり高かった。

四 国

梅雨入りはかなり早く、明けは早かった。降水量は後半かなり少なかった。日照時間は前半かなり少なく、後半かなり多かった。気温は後半かなり高かった。

中 国

梅雨入り・明けはかなり早かった。降水量は後半かなり少なかった。日照時間は前半かなり少なく、後半多かった。気温は後半かなり高かった。

近 畿

梅雨入りはかなり早く、明けは早かった。気温は後半かなり高かった。

東 海

梅雨入りはかなり早く、明けは早かった。降水量は後半かなり少なかった。気温は後半かなり高かった。

関東甲信

梅雨入りはかなり早かった。降水量は前半かなり多く、後半かなり少なかった。気温は後半かなり高かった。

北 陸

梅雨入りは遅く、明けはかなり遅かった。降水量は少なかった。

東北南部

梅雨入り・明けはかなり遅かった。降水量は前半かなり少なかった。

東北北部

梅雨入りはかなり遅く、明けは遅かった。

(注) 前半は6月、後半は7月(沖縄と奄美地方はそれぞれ5月、6月)の地域平均値による。